

「Double Contrast Gastrointestinal Radiology」

Igor Laufer, Mark Levine 著

癌研究会附属病院内科

丸 山 雅 一

本書は1979年にW.B. Saundersから出版された同名の本の改訂第2版である。初版では著者はIgor Laufer 1人であったが、今回は彼の教え子であるMark S. Levineが共著者として名を連ねている。私と東京女子医大の山田明義教授は初版のときも、今回も執筆者の1人としてこの本の執筆に参画し、それぞれ得意とする分野について日本の仕事を紹介した。

われわれ日本人の書いた部分とはともかく、この本の概観を紹介するのは国の内外を問わず貴重な機会のような気がする。というのも、古典的なバリウム診断の衰退が危惧されているのはわが国においては現実の問題であり、そういう状況のもとで、この本が出版されたことに私は米国の放射線診断の底力を感じずにはいられないからである。執筆者の1人である私がこの本のレビューをするのは、いささか手前味噌で面映ゆい気がするが、それを承知で感じたことを述べてみたい。

消化管の二重造影法の歴史はさておき、消化管の二重造影法が完成の域に近づいた背景にはわが国の先達の長年の努力があったからである。この認識に異議はないであろう。著者のIgor Lauferも、また、執筆者の1人である英国のClive Bartramも、一時期、白壁に学び影響を受けたという点では私と彼らは同門ともいえるのだが、今度の第2版では、彼らが1本立ちして、自己主張を始めたという印象が強い。それが、胃、大腸の記載や、日本の文献の引用の仕方に表れているような気がする。

ところで、お株を奪われてしまっ

たのは、バリウムの開発である。1度でも米国やヨーロッパで胃の検査をしたことがある日本人医師であれば、この本に出てくる食道、胃、そして大腸の二重造影の質の良さに目を見はることであろう。特に、食道の二重造影像について言えば、総じて日本のそれよりも上回っているような気がする。それは、高濃度低粘性バリウムのためである。日本では、MixobarやEZ-HDなどの名前で知られているが、この種のバリウムは米国の放射線診断医が古典的バリウム診断の生き残りをかけて作りあげたものである。そして、私見ながら、近い将来、唯一その命脈を保つことができるであろうと思われる胃癌の集団検診にこのバリウムは最適であり、これを使用することにより診断能の向上が望まれる。

各論的には、食道疾患(咽頭部を含む)のスペクトラムを質の良い二重造影の絵で見せているのは気分がいいし、大腸ではLauferやLevineの米国流だけでなく、Bartramの記載に英国的な手法がありありと示されているのも楽しいからである。小腸はというと、二重造影好きのLauferだけあってメチルセルロース法が控え目に書かれているが、私はこれには苦笑を禁じえない。Lauferの兄貴分であるHans Herlingerの気配りを感じるからである。

この本では、また、AIDSによるgastrointestinal manifestationを学ぶことができる。これは、われわれ日本人にも身近な問題となってきたるだけに見過ごせないところである。

今回、私は早期胃癌だけでなく、

食道、大腸のそれも担当させられた。これには私なりの感慨がある。従来、早期胃癌はともかく、大腸の早期癌を日本人に書かせることなど想像もつかなかったし、この分野での米国の牙城には立ち向かうべくもなかったというのが実情であった。ところが、2年前、Lauferは第2版では大腸も食道も私に任せると言ってきた。元より、われわれは、大腸の早期癌についても、米欧ににするものぞという気構えでやってきたからこそ今がある。だが、ここで忘れてならないのは、そういうわれわれの心情をわかりすぎるほどわかっていて、なおかつ、大腸を日本人に任せるというLauferの柔軟性としたたかさである。こういう彼のスタンスを前提にしてこの本のページをめくってみるのも一興であろう。

また、絵にしても、その解釈においても、日本の二重造影法に比して肌理があらわ、というような観点からこの本を批判しつつ読む方法もあるであろう。

日本の読者にとってこの本は、単に座右において日々これを学ぶという類のものではない。事はもっと深刻である。古典的な消化管の診断学における不易流行の思想を次世代に伝えようとする米国の放射線科医の良心とでも書いたら誇張に過ぎるだろうか。私は彼らが古典的なバリウム診断を忘れてはいないのだという警鐘として、この本を座右に置きたいと思う。

●Published by WB Saunders Co., Philadelphia, 1992, 735 pages, 726 figs, ¥27,500(予価)

取り扱い：医学書院洋書部(☎03-3817-5670~1)